

市政出前講座(7月11日)で市は「今のまま残すことは難しい」

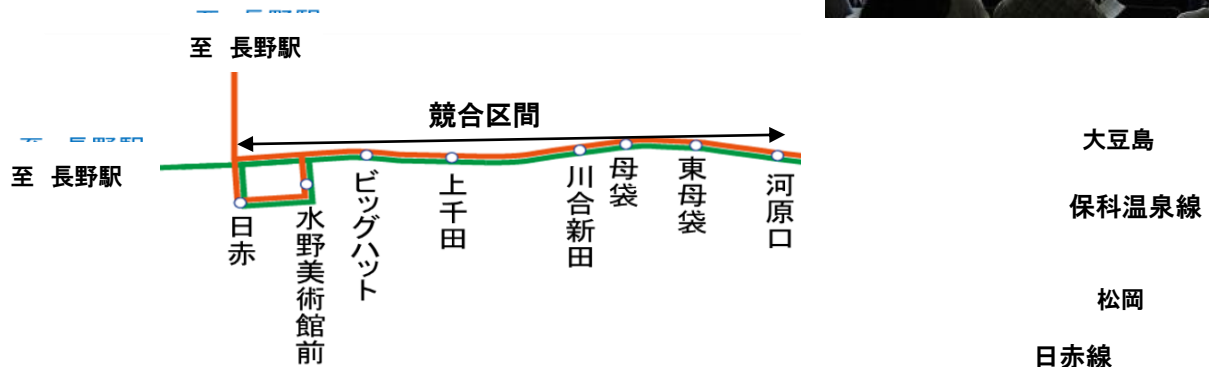
その理由として

■ 競合する民間路線がある

- ・ 公的資金によって支えられるコミュニティバスは路線バスと競合してはならない。
- ・ アルピコ交通の日赤線と路線が重複する「日赤」～「河原口」間の運行は困難。

競合する民間路線、アルピコ交通の「日赤線」とは

「松岡～母袋～日赤～荒木～長野BT～長野駅(善光寺口)～昭和通り～善光寺大門～長野高校～宇木」の路線。長野駅(善光寺口)を中心に、大豆島の松岡と宇木の間を結びます。平日32便。土休日28便。



(Q&A)

(Q) 「公的支援によって支えられるコミュニティバスは路線バスと競合してはならない。」とはどういうこと?

(A) 長野市が、市費(税金)でバス事業者に替わって運行(長電バス(株)に運行委託している)している現在の廃止代替バス保科温泉線と、路線バスであるアルピコ交通の「日赤線」とは重複する区間があるため、公営バスが民間バスの経営を圧迫することから、「競合してはならない」というルールがある。

従って、重複する、「日赤」～「河原口」間の運行は困難となり、「今のまま残すことは難しい」としている。

今後の協議の中で、路線の見直しが一つの焦点になりそうです。

この他に

- 🚌 大豆島からはアルピコ交通「大豆島線」(大豆島東団地～南俣～市役所～長野駅～長野BT)、
- 🚌 綿内からは長電バス「綿内屋島線」(綿内駅～屋島橋～長野駅)があります。

市との協議を前にして、保科温泉線バス対策プロジェクトがアンケート調査を実施します。(別途、区を通じて配布・回収)。保科、川田地区の全世帯のご協力をお願いします。